

建築版	施工段階	設備工事： RC躯体スリーブの検討	電気	○	設備工事 ポイントシート (1-8)
			空調	○	
			衛生	○	
			その他	—	
1-8	着工時				

スリーブは、工事区分を確認して漏れや間違いのないよう注意しましょう。

また、既製品のRC躯体スリーブ補強筋は、メーカーに依頼し構造計算し設計の承認を得た後に発注します。

ポイント

■スリーブ図の作成

必要な梁や壁の貫通部位置を、設備で施工図作成します。
その為に、総合図が必要です。

■スリーブ位置の整合性確認

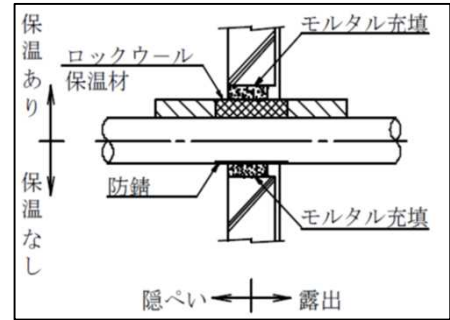
スリーブ位置が貫通可能な位置か構造図で確認します。
排水管では勾配を考慮した位置とします。

■スリーブ構造補強の実施

スリーブに対する構造補強方法を事前に検討し、
補強筋をセットします。（建築工事：工事区分要確認）

■防水、耐火性能の維持

外壁貫通、区画貫通など、貫通によって防水、耐火性能が損なわれないことを確認します。



壁・梁の貫通部納まり

先輩アドバイス

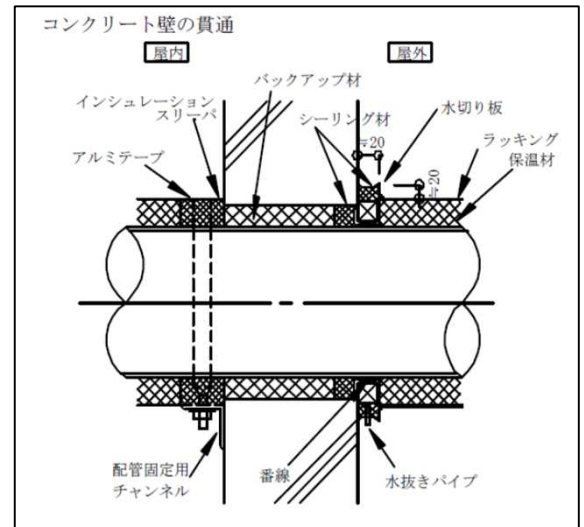
- ・絶対に間違えてはいけないのがスリーブ位置です。
確認をしっかりと行いましょう。

チェック項目

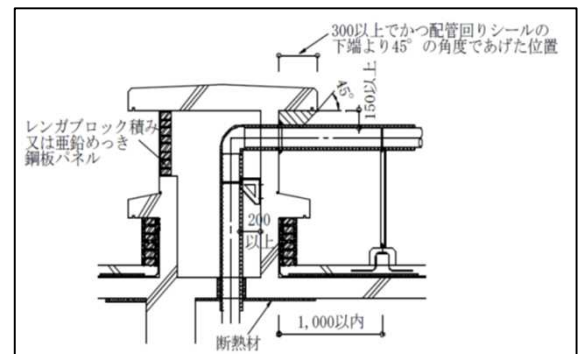
- 作成されたスリーブ図は総合図・施工図を基に作成されていますか。
- 梁スリーブは貫通可能位置に計画されていますか。
- 柱面、梁下端からの離隔、相互間距離、最大スリーブ径など、構造特記仕様書の制約条件を確認していますか。
- 構造設計者の承認を得ていますか。
- 外部への貫通部は防水性能を損なわない納まりが検討されていますか。
- 防火区画貫通部分は具体的な認定工法を確認し、その仕様が守られていますか。

失敗すると...

- ・スリーブの位置修正は非常に困難です。
- ・構造体である梁のスリーブは正には大幅な時間が必要なため工期遅延となり、営業補償問題に発展しかねません。
- ・外部への貫通部は不適切な施工による漏水が発生してしまいます。



外壁の貫通部納まり



屋上貫通部納まり

共通管理項目	合理化省力化	施工性向上	品質・性能向上	工期短縮・圧縮	コスト削減(材料)	コスト削減(労務)	設備先行工事	工事区分見直し	責任所在明確化
	○	○	○	○	—	—	—	—	○
備考	参考文献：						初版発行	2020年12月	
							改訂		